

きいちレポート 12



ごあいさつ

みなさんごきげんよう。9月の議会レポートをお届けします。9月議会は、平成25年度決算を審査する重要議会です。人口増加が見込まれる吉川市。子どもを産み育てる環境作りに、さらなる努力が必要では？
一般質問では、子育て支援新制度について、コピット聞きました！

ご意見はブログ <http://pokonin555.asablo.jp/blog/> にお寄せ下さい！

子育て支援新制度への計画化を！

平成27年度から子育て支援新制度がスタートします。「保育の必要性」にサービス受給要件が拡大するため、低年齢児の保育需要が大きく拡大します。あらたに策定する「子育て支援事業計画」には多様な施策を盛り込みニーズに応えるべき、との考えで質問しました。

問 戸張市政4期「子育てしやすいまち」における成果は。

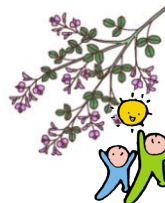
答 民間保育所の開設や病後児保育の実施、県内初となる送迎保育事業など子育て支援に努めた。また子ども医療費支給の対象年齢拡大や妊婦健診の公費負担拡充など保護者の経済的負担の軽減をはかった。さらに子育て支援センターの整備やホームスタート事業など育児不安や孤立感の軽減をはかった。

問 新たな子育て支援事業計画策定の考え方は。

答 増大する低年齢児の保育需要に対応するため、認可保育所の拡充や、新制度による地域型保育事業の活用など待機児童の解消をはかっていく。

問 地域特性をとらえた計画の策定を。

答 人口の偏りや家族構成などの地域特性を踏まえ、適切な施設整備や地域子育て支援事業を計画に位置付けていく。



新子ども・子育て支援制度とは？

平成27年度から導入される新制度は、女性の社会参画推進を目指し、「保育に欠ける」から「保育の必要性の認定」という制度の根幹が変化しています。財源面では、消費税率引き上げ分7,000億円程度が用意されており、実施主体が市町村というのもポイントです。自治体の権限と責任が大幅に強化され、それぞれの地域特性に即して「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、計画的に教育・保育、地域子育て支援を提供する責務があります。幼稚園と保育園の融合した認定子ども園制度の改善や、小規模保育なども公費給付対象になり、多様な保育サービスの提供が可能となります。

子育て支援に地域人材の活用を！

学童保育の充実（小6まで）も新制度の取り組みだが、子どもの居場所（放課後子ども教室）を地域人材の活用で行えば、交流の場が生れるという問題意識から質問。

問 地域人材を活用した、「放課後子ども教室」を。

答 土曜日に、こども体験活動事業を実施している。この実績を踏まえ平日の放課後にも拡大を検討したい。

問 次世代育成行動計画について。

答 育児休業の取得や育メンの啓発など意識の醸成をはかっていく。



きいちレポート！！

検索

9月議会の感想：吉川市の子育て支援は、待機児童ゼロを達成するなど、大きな成果を上げているのですが、新たな子育て支援事業計画の策定内容が問われます。人口増が想定される吉川市の保育ニーズは、あきらかに増加傾向大。受け皿として「幼稚園」を「認定子ども園」に移行する誘導施策を欠かすことができません。吉川市には民間幼稚園が5園もありますが、認定子ども園への移行希望がゼロとのこと。子育て支援事業計画の中に明確に位置付ける必要があると思いますが、どうでしょう。市の責務は、だいじょうぶ？